

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市たんぽぽホーム（立町・大野田・田子西・上飯田・西花苑）																								
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台はげみの会																								
3	指定期間	平成29年4月1日から平成34年3月31日（4年間）																								
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">平成29年</th> <th style="text-align: center;">平成28年度</th> <th style="text-align: center;">平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・立町</td> <td>2,497人（前年度比 105%）</td> <td>2,363人（前年度比 83%）</td> <td>2,836人（前年度比112%）</td> </tr> <tr> <td>・大野田</td> <td>3,570人（前年度比 91%）</td> <td>3,901人（前年度比 91%）</td> <td>4,253人（前年度比100%）</td> </tr> <tr> <td>・田子西</td> <td>2,947人（前年度比 106%）</td> <td>2,768人（前年度比 77%）</td> <td>3,571人（前年度比113%）</td> </tr> <tr> <td>・上飯田</td> <td>2,617人（前年度比 95%）</td> <td>2,738人（前年度比100%）</td> <td>2,717人（前年度比 91%）</td> </tr> <tr> <td>・西花苑</td> <td>2,258人（前年度比 89%）</td> <td>2,514人（前年度比103%）</td> <td>2,434人（前年度比 80%）</td> </tr> </tbody> </table> <p>《事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業 		平成29年	平成28年度	平成27年度	・立町	2,497人（前年度比 105%）	2,363人（前年度比 83%）	2,836人（前年度比112%）	・大野田	3,570人（前年度比 91%）	3,901人（前年度比 91%）	4,253人（前年度比100%）	・田子西	2,947人（前年度比 106%）	2,768人（前年度比 77%）	3,571人（前年度比113%）	・上飯田	2,617人（前年度比 95%）	2,738人（前年度比100%）	2,717人（前年度比 91%）	・西花苑	2,258人（前年度比 89%）	2,514人（前年度比103%）	2,434人（前年度比 80%）
	平成29年	平成28年度	平成27年度																							
・立町	2,497人（前年度比 105%）	2,363人（前年度比 83%）	2,836人（前年度比112%）																							
・大野田	3,570人（前年度比 91%）	3,901人（前年度比 91%）	4,253人（前年度比100%）																							
・田子西	2,947人（前年度比 106%）	2,768人（前年度比 77%）	3,571人（前年度比113%）																							
・上飯田	2,617人（前年度比 95%）	2,738人（前年度比100%）	2,717人（前年度比 91%）																							
・西花苑	2,258人（前年度比 89%）	2,514人（前年度比103%）	2,434人（前年度比 80%）																							
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者に支払った費用 218,824千円 (221,483千円) ・その他市が負担した費用 3,167千円※ (2,400千円) <p>※他施設と併せて購入した費用 (282,636円) も計上している。</p> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入 95,631千円 (96,059千円) ・その他収入 0千円 (1,700千円) 																								
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で施設の利用に関し、利用者アンケートを実施した。</p> <p>【立町】24人/25人中（96%）の回答で、大変満足又は満足が97.5%、不満との回答はなかった。 【大野田】54人/60人中（90%）の回答で、大変満足又は満足が90.8%、不満との回答は0.4%だった。 【田子西】29人/30人中（96.6%）の回答で、大変満足又は満足が89%、不満との回答は2.1%だった。 【上飯田】30人/35人中（85.7%）の回答で、大変満足又は満足が83.3%、不満との回答は3.3%だった。 【西花苑】23人/25人中（92%）の回答で、大変満足又は満足が95.7%、不満との回答は0.9%だった。</p>																								

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を十分理解のうえ施設運営に当たっている。 保護者を対象とした研修会の開催など、親子共に成長できるような利用者本位の施設運営を図っている。	S
II 施設の運営管理体制	施設の運営管理については、事業計画に基づいた運営がなされている。 情報管理の徹底に努めており、事故防止や災害発生時の対応体制は確立している。	S
III 施設・設備の維持管理	施設、設備は概ね適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	S
IV サービスの質の向上	保護者等に対してパンフレットを用いて説明するなど、わかりやすく、細やかな情報提供を心掛けている。 苦情解決の仕組みについて利用者への周知を行い、施設運営に真摯に向き合っている。	S
V 施設固有の基準	利用者への利用に係る説明及び支援に関する記録について、一部適切な取扱いがなされていない部分があった。 個別支援計画の記録は詳細であり、保護者の意見も取り入れて策定している。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	B

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（仙台はげみの会）による自己評価》

立町たんぽぽホーム
 <発達支援について>
 年度当初から半年間は2クラス体制で毎日通園を実施し、できるだけ登園日数を確保できるようにした。10月からは在籍数の増加に伴い、3クラスに編成し直し、週3・4回の変則的な通園形態とした。親子通園を基本として、個別活動(のびのび)や子どもの状況や在籍年数に応じて施設内分離(母子分離)を取り入れ、個別支援計画を基に各々の特性に応じた療育の工夫をした。
 <家族支援について>
 嘱託医や、卒園保護者を講師とした保護者勉強会の他、たんぽぽガイドやペアレントトレーニングを利用者に添った充実したものにし、より具体的な子供の対応について保護者が考える機会を作った。また、兄弟児の療育中の預かり保育や在籍児の一時預かり保育の体制を新たに考え直し、保護者が療育に参加しやすい環境やそれぞれの家庭環境を総合的に考えた家族支援を試みた。一時預かりに関しては、年度後半に13件の利用があり、預かりの理由としては兄弟児の授業参観、保護者の通院が多く見られた。きょうだい児支援(ホットキッズ)では、外部講師を呼ぶなど内容の充実を試みた。卒園児支援(さくらんぼ)も例年通り実施し、卒園保護者からの相談の機会となった。
 <地域支援について>
 卒園児の移行支援として、引継ぎや訪問を行い、また卒園児の電話相談や訪問相談にその都度対応した。今年度は、引継ぎの用紙を進路先に配布し、子どもの様子をより分かりやすく伝えることができた。
 近隣の幼稚園、児童館との交流を目的として、合同行事や合同避難訓練、幼稚園行事を企画し実施した。
 児童発達支援センターへの移行に向けて、地域相談員の研修に参加し準備を行った。

大野田たんぽぽホーム
 <発達支援について>
 在籍数が多く毎日登園は実施できなかったが、フリースペースを設けることで利用者の登園日数を確保することができた。また、臨床心理士、看護師との連携を図り、特性に応じて対応や療育の工夫をした。
 個別活動(のびのび)も昨年より回数を増やし、個々に合った、状態に合った対応の仕方を工夫することで保護者との共有ができた。
 <家族支援について>
 きょうだい児支援(ホットキッズ)、卒園児支援(さくらんぼ)が定着し、更に大野田のOB会が復活し懇談会や勉強会が行われ、中でも進路に向けての卒園児の保護者勉強会には多くの参加者が集い、進路選択の一助になった。
 また緊急時の一時預かりや卒園児に対しての電話相談や訪問しての相談にも対応し、家族支援の役割を果たした。
 <地域支援について>
 近隣の保育園、児童館の行事に職員が参加し、相互理解と交流を図った。
 町内会の懇談会にも参加し意見交換をすることで交流を図った。
 アニメーションダンスを行うボランティア団体と協力してダンス教室を行い、普段味わうことのできないプロのダンサーとの交流を図った。
 児童発達支援センターへの移行に向けて、地域相談員の研修に参加し準備を行った。

田子西たんぽぽホーム
 <発達支援について>
 在籍児の人数や状態から、1年を通して3クラスの毎日登園を行うことができた。毎日登園を継続することで、生活リズムが整い過ごしやすいつながりをつくることができた。また、保護者と相談する中で親子活動から施設内分離(母子分離)へと、児の状態に合わせ無理のない活動内容を進めることができた。心理士が療育に入ることで保護者の相談にもタイムリー応じることができた。
 <家族支援について>
 保護者向けの勉強会(嘱託医、アーチル)、ガイドの実施(園長)など、児への係わり方と同時に保護者への学ぶ場の提供も行うことができた。卒園児支援(さくらんぼ)やきょうだい児支援(ホットキッズ)に加えて、卒園後も保護者と児が安心して集団に参加できるよう卒園先訪問等も実施し支援した。在籍児の緊急一時預かり、活動中の兄弟児預かりは全職員で対応し、保護者が安心して通園できる環境づくりに取り組んだ。
 <地域支援について>
 近隣の保育園の行事に参加し、平成30年度の児童発達支援センターへの移行に向け関係づくりを継続した。
 児童発達支援センターへの移行に向けて、地域相談員の研修に参加し準備を行った。

上飯田たんぼぼホーム

<発達支援について>

個々のケースに応じた個別支援計画の作成、見直しを定期的に行うと共に、面談、個別あそびを通して成長の状態や課題、目標等を確認することができた。保護者勉強会の充実を図り、職員研修会も積極的に実施した。

<家族支援について>

保護者の通院、兄弟の健診、授業参観等の際、保護者の要望に添い「緊急一時預かり」を実施し、年々利用増加傾向にあり、感謝の声も聞かれた。卒園後も兄弟児支援(楽しい遊びや交流・クッキング等)を実施し保護者、兄弟児の期待の声も高まった。卒園児及び保護者の支援として月1回(当ホーム)午後に来る「さくらんぼの会」を設け、療育や相談・保護者勉強会を継続して実施した。

<地域支援について>

地域の施設として、アーチル、幼稚園、保育所、施設等と連携を深めながら情報交換や卒園児保護者等の相談にも関わった。また、上飯田たんぼぼホームの立地条件(公園が隣接)を生かし、四季折々の自然の体験・行事等を通して、様々な経験を提供した。

児童発達支援センターへの移行に向けて、地域相談員の研修に参加し準備を行った。

西花苑たんぼぼホーム

<発達支援について>

保護者との面談や療育場面を共有する中で、子どもの特性や支援方法を確認しながら支援計画を作成し、定期的に見直しを行い適切な実現に努めた。また集団での活動の他に個別活動を通し、発達課題に添った個別の対応や保護者との面談を丁寧に行った。医療ケア対象児が7名在籍していたため、状況により他園より看護師を派遣してもらい可能な限り安心できる体制づくりに努めた。子どもや家庭の状況に応じて単独通園・毎日通園も実施した。

<家族支援について>

保護者の受け止めや育ちに伴走しながら、我が子の状態を知り対応力を身につけていける支援を目指してきた。保護者勉強会を定期的に行い実施し、子どもへのより良い対応や進路決定について考える機会としてきた。重症児関連の外部研修会にも保護者と共に参加し学びを共にする機会をつくった。きょうだい児支援行事を年数回実施し、保護者やきょうだい児から期待の声があがっている。また、保護者の通院や兄弟児の学校行事の際に一時預かりも実施した。

<地域支援について>

卒園後も地域の中で安心して過ごせるように、事後教室の開催や進路先との引継等の移行支援を実施した。また、地域の「ネットワーク会議」や研修及び宮城総合支所との共催事業「らっこの会」(幼児健診事後教室)にも継続的に参加し、地域における子育て支援事業にも積極的に関わった。町内会への地域交流ホールの開放や園だよりの回覧等、地域との関わりも広げた。児童発達支援センターへの移行に向けて、地域相談員の研修に参加し準備を行った。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

平成29年度の管理運営について、公定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。児童の状況に応じたきめ細かい療育の実現を図り、特性にあわせた支援を行うための工夫も様々なされている。保護者勉強会や兄弟児・卒園児支援を行うなど、利用児童だけではなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めており、真摯にサービス向上に取り組んでいる。

S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課